

## 2. 子どもたちの「不思議」との出会いを大切に ～気付く・試す・考えるを生み出す環境の構成とは～ 出雲市立中央保育所・幼稚園（島根県出雲市）

### 1. 主題の受け止め

<子どもたちと「不思議」との出会いについて>

幼児は遊びの中でさまざまな気付きをし、試したり考えたりする。子どもは1歳の頃から、自然環境、社会環境、園内環境の中で、「はっ」と気付き、「おや」と感じ、いろいろなことに興味をもつ。興味や驚きの心、感動した心は、環境にかかわる行動の最初の姿であり、科学する心の芽生えであろう。子どもたちは、最初は、「見ている」というかわり方から、次第に「自分もしてみよう」と思い試したり考えたりしていく。また、友達や教師が周囲にいて、刺激を受け活動が広がっていく。子どもが生活している身近な環境から感じ取る心が『科学する心』と考える。この心を育てることが、豊かな育ちにつながる。

### 2. 研究の仮説

子どもたちの「不思議」との出会いを大切に「気付く・試す・考える」を生み出す環境の構成を工夫していけば、子どもの感性・創造性・主体性を育てていくことにつながるであろう。

### 3. 研究の内容と方法

- (1) 子どもたちが「やってみたい」「もっとやってみたい」と思い、不思議との出会いから主体的にかかわることができる環境の構成
- ① 「不思議だな」「なぜだろう」と興味関心を持って、繰り返すことができる環境の工夫
  - ② 「やってみよう」「試してみよう」と自分なりの考えで、試したり工夫したりできる環境の工夫
- (2) 子どもが不思議さを感じながら、遊びが続けられる保育者の手だて
- ① 好奇心・驚き・疑問をもたせるための工夫
  - ② 試したり、繰り返したりすることが楽しくなるような手だての工夫

### 18年度『《科学する心》を育てる』の捉え

科学する心を育てる	めあて、行動の内容
	○ 自然の事物や現象を認識したり、その自然物、現象についての基礎的なことを理解したりする。 <具体行動> 名前をつける・名前を言う・知る・五感で捉える・覚える・思い出す・真似る
	○ 自然の事物や現象を観察したり、簡単な用具を取り扱ったりすることができる。 <具体行動> 観察する・測定する（距離、量、重さ等）・飼育する・栽培する・作る・描く
	○ 自然の事物や現象に疑問を持ち、工夫したり試したり考えたりすることができる。 <具体行動> 疑問を持つ・認知する・関係に気付く
○ 自然の事象・現象についての疑問や問題を解決するために、自然に働きかけて愛着をもつ。 <具体行動> 興味、関心を持つ・調べる・確かめる・大切にする・かわいがり・感動する・協力する・認め合う	

#### 保育所部（1～2歳児）

・「おもしろい」「楽しそう」と感じながら安定する場や遊びを見つける。  
・身近な自然に目を向け、興味を持って見たり、探したり、触れたりする。

#### 幼稚園部（3～5歳児）

・おもしろいことや不思議に感じたことに興味、関心を持ち、試したり繰り返して遊ぶ。  
・動植物の生長や変化に関心を持ち、かわいがったり世話をしたりする。

天気の不しぎを  
みつけよう

植物・生き物の  
ふしぎをみつけよう

砂・土・水の  
ふしぎをみつけよう

手作りおもちゃで  
遊ぼう

#### <活動の主な流れ（抜粋）>



## 4歳児の事例

### 「工事中」で遊ぼう (4月の様子)

- ・砂を掘り、トロッコで運び、掘った所に水を流して川を作る。
- ・橋やトンネルもつける。
- ・立ち入り禁止の印(コーン)を作り、工事中を周囲の友達に知らせる。
- ・実際の工事現場を見に行く。工事車両を見る。



A児の様子	保育者の受け止め(●)と援助(*)
<p><b>5月23日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事現場で見た乗り物に興味を示し、家から友達が持ってきた乗り物の本や保育者が作った乗り物を見て、「ぼくもこんな車が作りたい」と言う。</li> </ul> <p><b>5月26日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家から乗り物作りに使えそうな空き箱を持ってくる。園にある廃材も使ってダンプカーを作り、走らせて遊ぶ。</li> </ul> <p><b>5月31日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面だけでなく、斜面を作り、波板や柔らかい板をつなげて友達と道路を作る。</li> <li>・道路ができてくると高いところから乗り物を走らせ、スピードがでたり、遠くまで走ったりするを楽しむ。</li> <li>・スタートの時に、車を強く押したことで遠くまで走らせようと試してみる。</li> </ul> <p><b>6月14日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物を走らせて遊ぶなくなる。</li> </ul> <p><b>6月20日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集まりで友達の乗り物がよく走ったことを伝えると、「ぼくの車は曲がるもん!!」と言う。</li> <li>「大きなタイヤにする」「～ちゃんよりもよく走るように車を変える」と言い、大きなタイヤにしたり、竹ひごやストローの長さを調節したりして、車を作り直す。</li> </ul> <p><b>6月22日</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイヤを変え、竹ひご・ストローの長さを調節することで、真っすぐよく走り、「ぼくのダンプは絵本コーナーまで行ったよ」「どっちが速いかな?」「先生、競争しよう!」などと言い波板で友達と競争することを楽しむ。</li> <li>・友達や保育者と波板の上に車を並べ、どちらがより遠くまで走るか、繰り返し競争を楽しむ姿が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工事現場を見に行ったことで、乗り物に興味を持ち始めてきた。</li> <li>*一緒に乗り物の本を見ながら、A児が作りたいダンプカーに近づくよう、難しい部分は手伝いながら、一緒に作る。</li> <li>●普段は製作の場面ですぐに「作れん」と諦めてしまうA児だが、興味をもった乗り物作りはとても楽しんでいる。</li> <li>*保育者も自分の車を一緒に走らせることを楽しむ。</li> <li>●平面ではスピードがでないが、斜面にするとよりスピードがでたり遠くまでいったりすることに気付き始めている。</li> <li>●この間までずっと楽しんでいたのになぜ遊ばなくなったのだろう。見守ろう。</li> <li>●道路ができ始め、斜面を走らせるようになると、A児の乗り物はすぐに曲がって落ちてしまい、楽しくないから遊ばなくなってきた。</li> <li>*友だちの車が何でよく走るかを一緒に考えてみる。</li> <li>*大きなタイヤを準備したり、竹ひご・ストローの長さを一緒に調節したりして、繰り返し走らせてみる。</li> <li>*A児と一緒に競争を楽しむ。</li> <li>*A児の乗り物が、タイヤを変えたり、竹ひごやストローの長さや位置を変えたりしたことで、よく走るようになった話をクラスの集まりで伝える。</li> </ul>

## 考察



- ・A児は乗り物を走らせて遊ぶ中で、始めは小さなゴム製のタイヤだったためうまくコースを走らせることができず、疑問を感じていた。どうしたらよく走るのか自分で答えを見つけることは難しかったが、繰り返し遊び、試行錯誤したり、友だちの様子を見たりしたことで、よく走る車を作りたいという気持ちをもった。保育者と一緒に大きなタイヤにし、竹ひご・ストローの長さや位置を調節し作り直したことで、乗り物がよく走るようになり、再び乗り物の遊びに興味をもち楽しむ姿が見られた。
- ・A児が満足感をもった要因の一つとして、保育者がA児に寄り添い、達成体験を味わわせるようにしたことがあげられる。(写真はA児ではなく活動をイメージするものです)

## ポイント

「科学する心を育てる」ために、「子どもたちの『不思議』との出会いを大切に、気付く・試す・考えるを生み出す環境の構成を工夫していけば、子どもの感性・創造性・主体性を育てていくことにつながるであろう」と仮説をもって実践されています。主題に迫る幼児の体験を捉えるために、一人ひとりを十分に理解して保育を展開することの重要性が、この事例から分かります。望ましい活動をすることで育ったと捉えるのではなく、「どのように感じ(心を動かし)、どのような思いや考えをもち、どのような試行錯誤をして困難を乗り越え、達成体験をしたか」見極めることが大切です。